

3つのRは ごみ減量のキーワード

10月は3R推進月間

減らそう ナス1/3個分

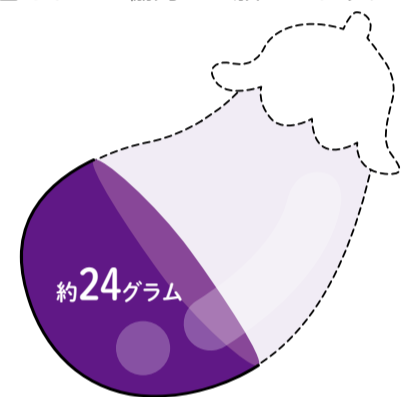
令和3年度の処理状況

可燃ごみの処理量は2万2931トンで、前年実績を830トン下回り、令和3年度目標値2万4551トンより1620トン下回りました。令和4年度も、7月までの前年比で214トン下回っています。また、令和3年度の資源化量は5523トンと前年度から140トン上回っています。

主な要因は、分別意識の高まりなどにより草木類の資源化などごみの分別が図られたことが挙げられ、順調に減量化が進んでいます。

引き続き、可燃ごみの減量が必要です。1施設で安定的に処理できるように、令和7年度末で可燃ごみを2万2040

トンまでに減らす必要があり、令和3年度より891トンの減量で達成することができます。これは1日に換算すると、1人当たりナス約1/3個分(約24グラム)に相当します。引き続き皆さまのご協力をお願いします。

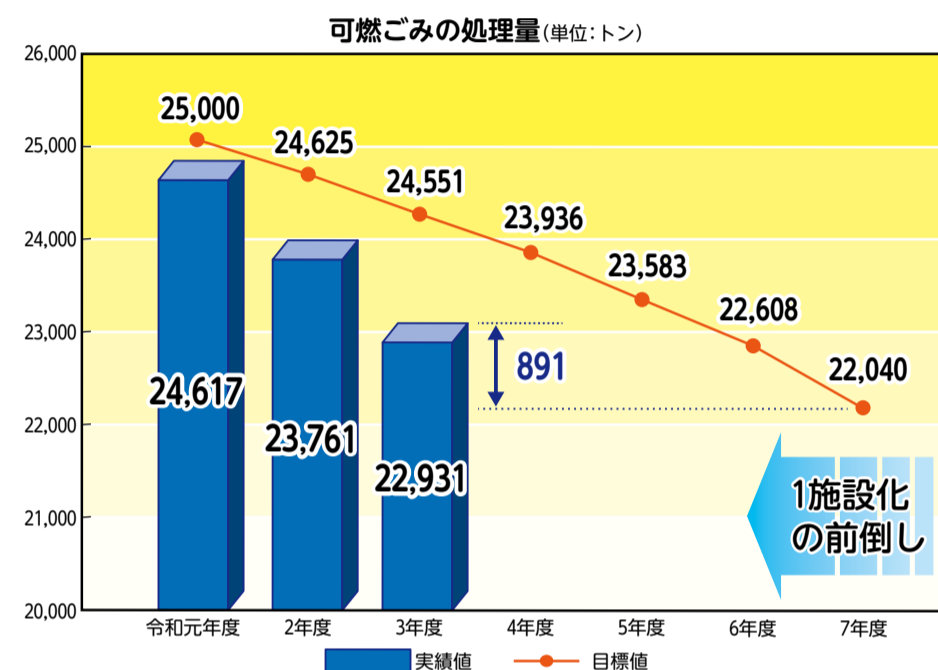


現在、伊勢原市と秦野市の可燃ごみは、伊勢原清掃工場の90トン焼却炉(昭和60年稼働)とはだのクリーンセンターの200トン焼却炉(平成25年稼働)の2施設で焼却処理しています。特に、伊勢原清掃工場は稼働から37年がたっており、維持管理に多大な費用が発生しています。

このような状況から、伊勢原清掃工場の稼働を停止し、はだのクリーンセンター1施設で焼却処理を行うこととしました。現状では皆さまの取り組みにより、ごみの減量が進んでいることや、早期に稼働停止することによる費用対効果の観点から、当初計画していた令和7年度末を前倒しし、令和5年度末までに1施設化へ移行することが決まりました。

引き続き安定的に処理し続けるため、可燃ごみを減らす取り組みが必要です。国が定める10月の3R(スリーアール)推進月間を機に、ごみの減量やリサイクルなど、環境に優しい取り組みについて考えてみませんか。

◎環境美化センター 画94-7502



減量につながる3Rの取り組み

Reduce ごみを減らす

ごみの発生自体を減らすことや、資源の無駄遣いを減らすことを指します。必要のないものを買わない・もらわない、長く使えるものを選ぶなど、ごみを減らす意識をもちましょう。

Reduceの実践例

◆生ごみを水切りして水分量を減らす



◆生ごみ処理機器を活用する※市で購入費の一部を補助しています

◆ペットボトルや缶などのごみを減らすために水筒を持参する



◆洗剤やシャンプーは詰め替え用があるものを選ぶ

◆修理できるものは、手入れをして長く使う

◆過剰包装の商品を避ける
◆生産するときに資源を節約して作られた製品を選ぶ

市の取り組み

生ごみ処理機器の購入費の一部を補助
燃やすごみのうち35%を占める生ごみ。生ごみ処理機器で処理することで、臭いをおさえることができるほか、ごみの量を減らし、ごみ袋の使用頻度を軽減できるため経済的です。市では、電動式生ごみ処理機と生ごみ処理容器について、それぞれの購入費補助を行っています。

補助額 購入費の1/2の金額(助成限度額=3万円)
生ごみ処理容器
対象 市販されている生ごみ処理容器(キエーロやコンポスターなど)
補助額 購入費の1/2の金額(助成限度額=1万円)



黒土にいる微生物の力で生ごみを分解して処理するキエーロ

電動式生ごみ処理機
購入先 市内・市外業者ともに対象

Reuse 繰り返し使う

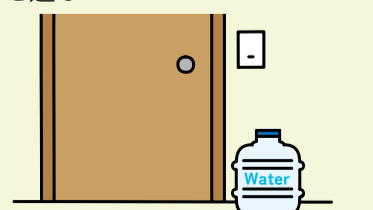
詰め替え用の製品を選んだり、使用済みのものを譲り合ったりして、もう一度使うことをいいます。

Reuseの実践例

◆まだ使えるものは人に譲ったり、リサイクルショップを活用したりする



◆リターナブル容器(飲料のびんやボトルのように、販売店で回収して洗浄し再利用する容器)のものを選ぶ



◆読まなくなった本を古本屋に持っていく



市の取り組み

リサイクルフェアを知っていますか

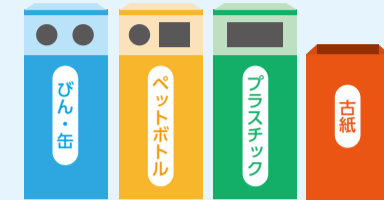
粗大ごみとして回収されたタンスや机、椅子などの家具を、シルバー人材センターが修理・清掃し、安価で販売するイベントを資源リサイクルセンター(下槽屋)で行っています。開催日程は、今後の広報いせはらや市ホームページなどでお知らせします

Recycle リサイクル 再利用する

廃棄物などをもう一度資源に戻し、製品を作ることをいいます。資源を正しく分別し、リサイクル製品を積極的に購入・利用しましょう。

Recycleの実践例

◆びんや缶、ペットボトル、容器包装プラスチック、古紙類などをきちんと分別する



◆インクカートリッジや小型充電式電池、ボタン電池などは店舗の回収ボックスを利用する※電池の回収協力店は下のQRコードから確認できます



充電式電池



ボタン式電池

市の取り組み

小型家電リサイクル

使用済み小型家電製品の回収ボックスを市役所や各公民館などに設置しています。

収集した小型家電は福祉事業所が解体し、資源化事業者へ売却されます。その売却益が障がい者の工賃になるなど、地域福祉の向上にも役立っています。

草木類の資源化

家庭から出るせん定枝や刈草、落ち葉などの草木類は、たい肥などにリサイクルされます※処理にかかる手数料の費用負担はありません

戸別回収

担当へ電話し、回収の日程を確認してください。自宅まで回収に伺います。枝の長さや太さに制限があります。

大きさ・量の目安

45リットルの袋に入れて2袋以上(木や枝と草や葉を同じ袋に入れても可)、または3束以上(1本当たりの長さ1m以内、太さ15cm以内)

自己搬入

草木類を担当まで持ち込んでください。中身を確認し「搬入確認書」を発行しますので、指定事業者にご搬入してください。大きさや量に制限はありません。袋やひもは持ち帰ってください。搬入確認書の発行は月～土曜日の午前9時～11時、午後1時30分～4時(祝日、年末年始、資源化事業者の休業日を除く)

自治会回収

各自治会では、草木類集積所の設置が進んでいます。家庭で出た草木類は、少量のものになると、燃やすごみとして出されていることがあります。

自治会ごとにまとめることで、一定量が集められ、手軽に捨てるができます。約3年前から自治会で集積所の設置が始まり、今では38カ所、自治会の約26%で設置が進んでいます(令和4年9月1日現在)。

引き続き、自治会と調整を図りながら、集積所の設置箇所を増やしていく予定です。

回収の対象とならないもの

- 次のものは対象外であるため、回収できません。
- ◆キョウチクトウなど毒性のあるものや竹、ササ、芝生、根株
- ◆除草剤や砂(砂利)、大量の土が付着したもの
- ◆野菜や果物類
- ◆ごみが混入しているもの
- ◆造園業者やシルバー人材センターなど事業者に依頼して処理したもの

「雑紙救出大作戦」～夏休みに市内の小学生が取り組みました～

子どもたちが環境問題や社会に貢献する手立てを自ら考え行動するきっかけとして、夏休み期間中、小学校4年生～6年生の児童を対象に「雑紙救出大作戦」を実施しました。

燃やすごみに含まれることの多い雑紙(ティッシュペーパーの箱や菓子箱、プリントなど)を紙類回収袋に集め、夏休み明けにそれぞれの小学校へ持ち込むか、集めた雑紙の重さを量って記録用紙に記入し、提出しました。

小学校6年生の藤下遥斗さんは、「紙ごみが処分できる上に、リサイクルでき、エコで一石二鳥だと思います。来年中学生になりま

すが大事な活動なので、これからも続けていきたいです」と話してくれました。

また、雑紙を回収する際、1年生～3年生からも「やってみよう」「雑紙を集めたい」といった声が出るなど、リサイクルについての学年の子どもたちも興味を持っている様子でした。

また、集められた雑紙がリサイクルされると何になるのか、子どもたちに知ってもらうため、市内の資源回収事業者である、有限会社タチオカ商会(下槽屋東三丁目14番地)から、トイレペーパーを提供していただき、各小学校へ配布しました。



雑紙から作られたトイレペーパー

市内10小学校の総救出量
2,415kg



回収袋に雑紙を集める



1袋で約2キログラムまで入ります



たくさんの雑紙が集まりました(比々多小学校)

みんなも雑紙を救出しよう



ごみ分別ガイドで手軽に検索することができます

燃やすごみや不燃物、粗大ごみなどの分別区分や50音順、キーワードで検索できます。ごみの出し方や粗大ごみの基準など、品目ごとに留意点書かれているので、ごみの分別で迷ったときは、ごみ分別ガイドをご活用ください。市ホームページ「くらしのガイド」→「分別・検索」をご覧ください。市LINE公式アカウント「ごみの出し方」→「分別ガイド」からも確認できます



LINE操作画面

道灌まつりでフードドライブを実施します

食品ロス削減の一環として、家庭や職場で眠っている食品を福祉団体などに寄付するフードドライブを実施します。賞味期限まで2カ月以上あり、常温保存できるレトルト食品や缶詰などをお持ちください。

とき 10月1日(土)正午～午後5時、10月2日(日)午前10時～午後5時
ところ 伊勢原駅北口暫定タクシー待機場場
協力 伊勢原地区環境保全連絡協議会

食品ロスとは

本来食べられるのに捨てられる食品のことです。食品ロスの削減はごみの減量だけでなく、焼却処理するために発生する温室効果ガスの削減による環境負荷の軽減も期待できます。詳しくは担当へお問い合わせください。

